



# 東長崎 PRIDE

HIGASHI NAGASAKI JHS

一ひがながプライドー

自ら 誇りと自信を持ち、率先して行動する

長崎市立東長崎中学校  
学校だより 第11号  
令和5年7月26日発行

副校長 宮崎国広

## 長崎っ子の心を見つめる教育週間

月日。	曜。	内 容。
6/26.	月。	<input type="checkbox"/> 生徒会挨拶運動 <input type="checkbox"/> 授業公開。 <input type="checkbox"/> 教頭講話 <input type="checkbox"/> 市中総体表彰報告会。 <input type="checkbox"/> 被爆体験講話学習 <input type="checkbox"/> こころアンケート(1, 2年:朝読書の時間)。
6/27.	火。	
6/28.	水。	□生徒会挨拶運動 □授業公開。
6/29.	木。	
6/30.	金。	<input type="checkbox"/> 生徒会挨拶運動 <input type="checkbox"/> 授業公開。 <input type="checkbox"/> 心を見つめる朝読書。 <input type="checkbox"/> 生徒総会(5, 6校時)。
7/1.	土。 【土曜授業】 ※荒天のため 中止。	<input type="checkbox"/> 生徒会挨拶運動 <input type="checkbox"/> 授業公開。 <input type="checkbox"/> 学活:「ネット・スマートを使う力、使わない力」 講師:長崎県青少年育成県民会議 宮本幸成 氏。 <input type="checkbox"/> 道徳:全学年「生命尊重・家族愛」。 <input type="checkbox"/> 学級懇談会。

保護者や地域住民が学校を訪れ、授業参観や子どもたちとの交流や教師との語り合い等をとおして、学校を起点に地域の人が地域の子どもたちを見つめ、共に行動することで、心豊かな「長崎っ子」の育成を目的とし、長崎っ子の心を見つめる教育週間を実施しました。

7月1日(土)開催予定の「土曜授業」は、残念ながら、荒天のため中止となりましたが、6月26日(月)～6月30日(金)の5日間、教頭による、教育週間についての趣旨説明及び講話より教育週間をスタートしました。

### 【教頭講話】

おはようございます。今日から7月1日までは、「長崎っ子のこころを見つめる教育週間」です。

「命を大切にしているか」「思いやりの気持ちを持って相手に接することができているか」日常の自分を振り返り、皆さんの手で居心地のよい学校にしていくための「意識向上週間」です。温かな心であふれる「ひがなが」となるよう、よりよきを目指して行動に移していきましょう。

さて、2012年、ブラジルのリオデジャネイロで、国際会議が開かれました。「環境が悪化した地球の未来」について考えるためです。各国の代表者が順番に意見を述べますが、名案と呼べるものは特に出ませんでした。会も、終わりに近づくころ、南米の小さな国 ウルグアイに順番が回ってきました。演説者は、ヒムカ大統領。彼の演説は、大きな反響を呼び、のちに、「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」として書籍化され、映画化もされました。彼は、こう切り出します。

今日の午後、ここでずっと話されていたことは、人類がこの先、地球の自然と調和しながら生きていくにはどうしたらよいのか、そして世界から貧しさをなくすにはどうしたらよいのかということでした。

しかし 一方で、わたしたちの頭には 何が浮かんでいるでしょう。もっと豊かになって、欲しいものがどんどん手に入る、裕福な社会を望んでいるのではないでしょうか。

絵本「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」より引用

編:くさばよしみ 絵:中川 学 発行所:(株)汐文社

つまり、彼の意見は、こうです。

例えば、電球。本当は今よりも長く使える電球を作ることはできるのに作らない。環境を守ろうと言ながらも、儲けるために、個数を売らなくてはならないから、使い捨てる。そうした悪循環の中で私たちは生きている。「どのように、地球の自然と調和しながら生きていくべきか」を話し合っているけれど、水不足や環境の悪化によって「地球の未来」が危ぶまれているのではない。「どうすれば世界から貧しさを失くすことができるか」を話し合っているけれど、「貧しさ」とは、「少ししか持っていないこと」ではなく、「必要以上に、もっと、もっとと 欲しがること」である。だから、今の「生き方」や、これまで目指してきた「幸せ」の中身を見直さないと問題の解決には至らないというのです。この考え方は、世界、国という大きな枠組みだけでなく、皆さんのが生活する学校や家庭の中でも、当てはめられそうです。

この教育週間に機会に、「幸せ」とはなにか、より良い「生き方」とはどのようなものか、ぜひ、考えてみてください。

今、2年生のフロアには、オリジナル「枕草子」が掲示されています。四季折々の美しさや生活の様子が、それぞれの季節に合うアイスクリームなどを題材につづられています。読むと、その状況が目に浮かんで、温かい気持ちになり、微笑ましい描写に、思わずくすっと笑ってしまいます。

また、たとえ、ままならない状況であっても、「それは、それで、よし。」とする潔さ、ありのままを受容して楽しもうとする心の在りようが描かれたものもあり、どれも、とても、すてきです。友人との穏やかな日常や、家族のたわいもない会話、人と人との温かな関係性。作品につまつた、これらのこととは、まさに、「幸せ」「豊かさ」だと私は考えますが、みなさんはいかがでしょうか。

自分の「幸せ」は、自分が決める。自分の「幸せ」の価値観で、ほかの人を「不幸」「価値のないもの」と、おとしめることはできないのです。

また、ほかの人と比較して、自分のことを「不幸」「価値のないもの」と判断する必要もないのです。「ひがながプライド」を掲げる本校の生徒が、「自分の幸せ」も、そして、「自分以外の人の幸せ」も尊重しながら、楽しく学校生活を送ることを願っています。

## 被爆体験講話学習



6月26日(月)5・6校時には、講師に原田小鈴さんを迎えて、被爆体験講話学習を行いました。

講師の原田さんは、広島と長崎で被爆した2重被爆者である山口彊さんを祖父にもち、被爆3世として活動されています。

山口彊さんは、8月6日、出張先であった広島市で通勤途中に被爆され、翌日避難列車で長崎に戻るが、8月9日、爆心地より約3.5kmの長崎三菱造船所で被爆されました。90歳から被爆語り部として活動し、国連でも非核と平和を訴えられました。

原田さんは、山口さんが93歳で亡くなった翌年の2011年から「平和のバトンをつないで」という思いを継ぎ、語り部を続けておられます。

原田さんからは、紙芝居を使って、山口さんが語ってきた被爆当時の様子や、国連での山口さんの訴えをテレビ映像を使って説明をしていただきました。生徒は真剣に原田さんの話に耳を傾け、質問し、自分たちに何ができるかを真剣に考えていきました。





東長崎  
PRIDE  
HIGASHI NAGASAKI JHS

—ひがながプライド—

自ら誇りと自信を持ち、率先して行動する

長崎市立東長崎中学校  
学校だより 第12号  
令和5年7月26日発行  
副校長 宮崎国広

# 長崎っ子の心を見つめる

## 教育週間 No2 生徒総会



教育週間期間中の6月30日(金)に「令和5年度東長崎中学校生徒総会」が開催されました。今年の総会では、

〈第1号議案〉

○生徒会執行部年間活動計画 ○学年委員会年間目標・活動計画 ○専門委員会年間目標・活動計画

〈第2号議案〉

○放課後の勉強スペースをつくる ○昼休みの体育館開放について協議されました。

スムーズな進行、丁寧に準備・計画された提案、活発な議論があり、とても充実した生徒総会でした。議長が全校生徒の反応を見ながら、提案・発言内容をしっかりと把握し、的確な判断のもと発言者を示し、テンポのよい進行を行ってくれました。



また、第1号議案審議では、生徒会役員や専門委員会のみなさんの丁寧な取り組みが感じられるとともに、準備が大変だったのではないかと感じさせられました。みんなが理解しやすいような提案になっていました。これまで、みんなのことを思い、考え、たくさん悩んだ結果、誰もが心地よく理解し、承認を得ることができました。

第2号議案では、活発で建設的な意見が多く出され、生徒みんなが、学校を楽しく安心して過ごせる場所にしていきたいという思いが伝わってきました。

本会に至るまでの、学級での話し合いでも、しっかりと考え方検討してきたことが伺えました。

特に、議案に対してのメリットだけではなく、デメリットについてもしっかりと目を向け協議がなされていたことに感心させられました。

